

農業共済新聞 千葉版

掲載号	6 月 2 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	上席研究員 神田 美知枝
題名	パッションフルーツの露地栽培	
備考	【写真説明】 逆L字仕立てによる露地栽培	

【本文】

南国の果物パッションフルーツは、香りがよく、加工品としても利用できることから、観光農業や直売所に適した新しい品目として注目されています。すでにハウス栽培が試みられ、収穫された果実は直売所で販売されているパッションフルーツですが、千葉県南部では露地でも栽培できることが分かりました。

パッションフルーツはトケイソウ科の多年性つる植物です。食用として栽培されている系統、品種の中で、耐寒性がある「台農1号」の選抜系統「紫100g玉」が露地栽培に適しており、10アール当たりの収量は560kgになります。

露地栽培の場合、前年の10月に挿し木を行い、加温（最低温度：5℃）施設で冬期間育苗します。5月中旬に露地に定植すると、6月中旬から開花し、8月から11月まで収穫できます。確実に結実させるためには人工受粉が必要です。果実は袋掛けをし、袋内に自然落下したら収穫します。病虫害の発生は少なく、定期的な薬剤防除は必要ありませんが、ウイルス病対策として健全な苗を導入します。

整枝は「逆L字仕立て」という方法で行います（写真）。主幹を160cm前後の高さに伸ばし、直角に曲げて主枝とし、この主枝から結果枝を下へ垂らします。この方法は「棚仕立て」のように手を上げて作業する必要がないため、高齢者や女性でも容易に交配や収穫作業が出来ます。

露地栽培は高齢者や女性でも栽培に取り組みやすく、施設の経費を抑えた栽培が可能となります。パッションフルーツはこれからの新しい特産物として期待できます。

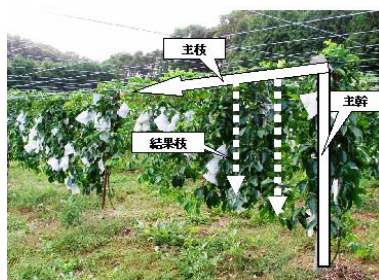


写真 逆L字仕立てによる露地栽培